

ありがとう、大宮図書館

龍谷大学長 入澤 崇

私が龍谷大学文学部に入学したのは1974年でした。なかなか大学になじめず居心地の悪さを感じながらの日々でしたが、3回生になって私にとっての居場所が見つかりました。それが大宮図書館でした。図書館の書庫の中を散策するのがたまたまなく好きでした。パーリ語の授業を受講していたので、インド関係の本を2階の閲覧室でよく読んでいました。パーリ語のcinaが中国（秦）を指す言葉であり、その音写語が「支那」であることを知ったときは思わず「へえ〜」と声をあげたものです。いつの頃であったかは忘れましたが、書庫の分類表示の「支那」が問題視され、「中国」に変えることになりました。「支那」は中国を侮蔑する言葉だから変更するというものでした。ちょっと待って」という気持ちになりました。「支那」は侮蔑語ではないですよ。「支那」を侮蔑する言葉として使うようになったのは軍国主義となった近代日本であり、「支那」という言葉自体に差別的な意味合いは本来ありません、と図書館関係者に伝えましたが、聞き入れられませんでした。

現代において「支那」は中国の蔑称となっていることはよく知られています。だから日常使ってはならないことはよくわかります。しかし、「支那」=侮蔑語・差別語という認識は初めからそうであったかのように受けとられかねない危険性もあります。例えば、空海が作った詩に「支那」という言葉が出てきますが、空海は中国を蔑視していたのでしょうか。明治期になっても中国をこよなく愛し、中国に敬意を払っていた人が「支那」という語を多用していたことはもっと知られていい事実です。書庫の分類表示に「支那」と記し



たむかしの図書館員が中国を侮蔑していたのでしょうか。そんなはずはありません。問題の所在は明らかです。「支那」を差別語に仕立てたのは中国を敵とみなし、中国を嫌った人たちの感情です。言葉それ自体に問題はなりません。差別語を生み出す人間の感情こそが問題なのです。

大学を去るにあたって思わず駄弁を弄してしまいました。お許しください。

図書館は私の青春そのものです。

ありがとう、大宮図書館。さらば、大宮図書館。

（なお、「支那」という語についてもっと詳しく知りたの方は、高島俊男「支那」はわるいことばだろうか」（『本が好き、悪口言うのはもっと好き』大和書房所収）、をご覧ください。中国が蔑視の対象となる過程に関心のある方には、最近出た金山泰志『近代日本の対中国感情 なぜ民衆は嫌悪していったか』（中公新書）をお薦めします）

Ryukoku University Library News



龍谷大学図書館報 来・ぶらり

CONTENTS

- 01 巻頭言
- 02 TOPICS
- 03 学生に薦めたいこの一冊
- 04 大宮図書館特別展観
- 05 ライブラリーサポーターのこの一年
- 06 2024年度後期展観紹介

TOPICS

深草図書館施設整備について

2025年度4月に社会学部が深草学舎に移転することに伴い、8号館2階閲覧室を拡充するとともに和顔館各階のレイアウトを一部変更して、閲覧席を156席増設しました。8号館2階の拡充スペースには、図書館利用者アンケートで要望の多かったコンセント付のキャレル机を配置しています。白と木目を基調としたカラーで統一し照明も明るめとした、新しい学修スペースとなっています。是非ご利用ください。

また、その拡充工事と併せて教員閲覧室と名誉教授室を整備し什器を入れ替えるとともに、女子トイレの洋便器化も行いました。その他、利用が少ない和顔館2階ゲートを移設し、1階東側ゲートを新たに設け、入退館時の混雑解消を図っています。

今後も引き続き、利用者みなさまがより利用しやすい図書館となるよう、ソフト・ハード両面から整備を進めて参ります。



学生へ薦めたいこの一冊

『語学の天才まで1億光年』

高野秀行 [著] 集英社インターナショナル 2022年
瀬田図書館：瀬田.本館B1開架 804/タヒコ
資料番号：32400012092

著者は、探検記を数多く刊行してきたノンフィクション作家。幻獣ムベンベを探しにコンゴに行きリンガラ語を学び、麻薬王のアジトに潜入してシャン語を覚え、という展開に頁をめくる手がとまらない。25以上の言語を習得してきた著者にとって外国語（とくに、少数民族の言語）とは、探検という目的を叶える「魔法の剣」であるという。

探検記であると同時に、外国語学習について大切なことを気づかせてくれる本。とくに、著者の経験に裏打ちされる「エピソード」での著者の指摘は秀逸。

文学部教授
水尾 文子



『しろがねの葉』

千早茜 [著] 新潮社 2022年
瀬田図書館：瀬田.本館B1開架 913.6/チアシ
資料番号：32305003135

ガツーンとボディブローを食らってノックダウンさせてくれる小説である。私の日常を吹き飛ばし、目を覚まさせてくれる。「起きろ!」「ちゃんと生きろ!」と。主人公は、戦国末期に石見銀山で働きだすウメ。銀山の過酷な暮らしが描かれているにもかかわらず、ウメの生と性は、私たちの日常生活を吹き飛ばしてくれるほど力強い。ウメは、生と性がどれだけシンプルで、かつ圧倒される営みであるかを教えてくれる。

森、土、水など自然の匂いが本から匂い立つような描写に引き込まれる。「どう生きるのか」考えたい方にお勧めの1冊である。

心理学部教授
赤津 玲子



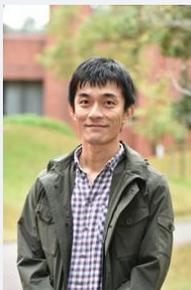
『僕たちはまだ、インフレのことを何も知らない：デフレしか経験していない人のための物価上昇2000年史』

スティーヴン・D・キング [著] 千葉敏生 [訳] ダイアモンド社 2024年
瀬田図書館：瀬田.本館1F開架 337.9/キスホ
資料番号：32405013551

昨今、物価の上昇、すなわちインフレが経済社会問題となりニュース等で頻繁にとりあげられています。歴史的にみても国際的にみても、インフレは珍しい現象ではありません。しかし、日本で生活してきた今20歳前後の学生の皆さんは、インフレが自分たちの身の回りで起こり得る現象だと思っていなかったかもしれません。

本書は、インフレはなぜ起こるのか、世の中にどんな影響をもたらすのか、歴史的な観点から解説してくれています。本書を通じて一度、私たちの身の回りで起こっていることを客観的に考えてみましょう。

経済学部准教授
川元 康一



『労働・貧困』

丸山里美・太郎丸博 [編] 岩波書店 2024年
瀬田図書館：瀬田.本館1F開架 361.08/キアイ/6
資料番号：32405034875

社会学の次の30年を見据えて刊行が進むシリーズの1冊である。日本型雇用システムが変容し、貧困が可視化したここ20年間の労働と貧困に関わる諸現象—非正規雇用、長時間労働、ブラック企業などに量的・質的なさまざまなアプローチから迫ろうとする諸論考が収録されている。たとえば、「バイクライダーのエスノグラフィー—危険労働にはまる若者たち」「日本の労働時間はなぜ減らないのか?—長時間労働の社会的考察」など、実状を知るだけでなく、社会的アプローチの豊かさ、おもしろさを堪能できる1冊である。

経営学部准教授
妻木 進吾



『嫉妬論：民主社会に渦巻く情念を解剖する』

山本圭 [著] 光文社新書 2024年
深草図書館：深草.文庫・新書 081/コウフ/1297
資料番号：12300048395

聖人君子は別として、人は誰しも、他人のことを妬ましく思った経験があるのではないだろうか。本書は、このダークで厄介な嫉妬という感情を丁寧に紐解きつつ、それが民主主義といかに分かちがたく結びついているのかを論じた好著である。嫉妬は人間の条件にほかならない。そうであるならば、嫉妬感情を煽られ、その結果社会の分断に加担することになるのを避けるためにも、いまいちど、自分の嫉妬感情と正面から向き合ってみてはどうか。

法学部教授 橋本 祐子



『「みんな」って誰?:災間と過疎をのびのび生きる』

宮本匠 [著] 世界思想社 2024年
瀬田図書館: 瀬田.本館1F開架 361.7/ミタミ
資料番号: 32405034033

現代の日本社会は、人口減少や少子高齢化などに見舞われた、いわゆる右肩下がり時代となり、明るい未来や希望が描きづらい閉塞的な世の中になっているのではないのでしょうか。

本書は大災害によって未来の希望が描くことがより難しい被災地を事例に、右肩下がり時代を前向きに生きていくための心持ちについて、「みんな」というキーワードから教えてくれます。

政策学部准教授
石原 凌河



『魚にも自分がわかる:動物認知研究の最先端』

幸田正典 [著] 筑摩書房 2021年
深草図書館: 深草.文庫・新書 081/チクマ/1607
資料番号: 12100022867

人間は、他の動物と全く違う高尚な生き物だと思っていまいませんか。では、何が違うのでしょうか。本書は、脊椎動物で一番の「アホ」だと思われ、互いの顔で個体識別していることすら信じてもらにくい魚類が、なんと「自己意識」をもつことを示唆する研究成果を楽しく紹介する。戦略的に実験を重ねる様子や「権威」とのやり取りも含めて、ワクワクしながら読んでほしい。常識(18歳までに身につけた偏見のコレクション)を捨てる勇氣を持って。

先端理工学部教授
丸山 敦



『ワイン知らず、マンガ知らず』

エティエンヌ・ダヴォード [著] 大西愛子 [訳] サウザンブックス社 2022年
瀬田図書館: 瀬田.本館2F開架 588.55/タエワ
資料番号: 32405045151

自然派ワインの醸造家と社会派の漫画家が、お互いの「作品」が作られていく現場を歩き来する1年ほどが描かれているバンド・デンネ(フランス語圏の漫画)である。特に興味深いのは、「ピオディナミ」という、牛角に牛糞を詰めた等の「調合剤」を特定の日に畑に撒くといった特異な農法の実践が、絵と醸造家の本音によってあかされているところである。このように本書は、普段は目にするところのない、「作品」が生み出される場所と人間関係を知ることができる、良質なフィールドワークの記録としても読めるものである。

農学部准教授
渡邊 洋之



『赤と青のガウン:オックスフォード留学記』

彬子女王 [著] PHP文庫 2024年
深草図書館: 深草.和顔館開架B2 377.6/アキア
資料番号: 12400019916

みなさんの留学経験はどのようなものですか?大学の厳かな儀式や刺激的な講義、国際色豊かな友人たちとの交流、そして文化の違いに戸惑いながらも自らの成長を実感する瞬間がありますよね。留学生活の裏側に潜む孤独や葛藤にも焦点を当て、成功だけでなく挑戦や失敗の重要性をこの本から学ぶことができます。

国際学部准教授
長尾 明子



『医療・福祉と人権:地域からの発信』

医療・福祉問題研究会 [ほか] 編著 旬報社 2018年
瀬田図書館: 瀬田.本館2F開架 498.04/イリイ
資料番号: 31905004914

私たちの生活に欠かせないものが保健・医療・福祉です。本書は、石川県の保健・医療・福祉の専門職、研究者、運動団体職員で構成される医療・福祉問題研究会が人権の視点、「地域」での住民、高齢者、障害のある人、有病者の立場から、保健・医療・福祉の問題点を学際的・実証的に明らかにし、今後のあるべき方向を提言したものです。過疎化・高齢化が進む珠洲市での医療・福祉サービスの欠如による「もう一つの過疎化」問題も提起しています。一極集中が進む中、地方からの発信である本書は示唆に富みます。

社会学部教授
田中 明彦



『8がけ社会:消える労働者朽ちるインフラ』

朝日新聞取材班 [著] 朝日新書 2024年
深草図書館: 深草.文庫・新書 081/アサヒ/967
資料番号: 12400022716

我が国は人口減少社会に突入していますが、2040年の日本の労働者人口は現在の8割になると予測されています。働き方や仕事の進め方、公共インフラや行政サービスの維持管理を現状のまま展開することは極めて困難であると予測されています。本書では朝日新聞取材班が取材を通して具体的な見通しや解決策について詳細に伝えています。今後の皆さんの暮らしやキャリア形成の参考になる本です。是非一読下さい。

短期学部教授
松田 美智子



大宮図書館特別展観

大宮図書館2024年度特別展観

「中世本願寺の文学—『平家物語』と和歌を中心に—」開催について

・大宮図書館特別展観について

大宮図書館では、毎年秋10月18日の報恩講を挟んだ約10日間の期間、大宮キャンパス本館展示室で特別展観を開催しています。

展観では、それぞれの回でテーマを設定し、普段、利用者の方々が自由に閲覧することができない貴重資料を中心に、展示・公開を行ってきました。見学者は、学内だけにとどまらず学外を含め、多くの方々にご覧いただいています。

近年では、世相からテーマを設定して、病に対する人々のこれまで歩みを取り上げた「病と生きる」（2021年度）、日本で古代から繰り返されてきた様々な戦（いくさ）の記録や平和への思いを記した資料などを取り上げた「戦（いくさ）と平和」（2022年度）を開催しました。また、昨年度は、中古文学会2023年度秋季大会が大宮キャンパスで開催されることから、『源氏物語』や『源氏物語』に関連する和歌集などの資料を取り上げた「〈紫式部〉の物語」を開催しました。



「病と生きる」（2021年度）

https://opac.ryukoku.ac.jp/iwjs0005opc/htdocs/2021_yamaitoikiru_prod/index.html

<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-Gd02QRZVm19>

「戦（いくさ）と平和」（2022年度）

https://opac.ryukoku.ac.jp/iwjs0005opc/htdocs/2022_ikusatoheiwai_prod/index.html

<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-347VbOwZVNm>



「〈紫式部〉の物語」（2023年度）

https://opac.ryukoku.ac.jp/iwjs0005opc/htdocs/2023_murasakishikibu_prod/index.html

<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-8b41bpEV3k0>

近年開催された特別展観の内容は、図書館HPまたはジャパンサーチ・ギャラリーで閲覧することが可能です。上記URLよりご覧ください。

・2024年度特別展観「中世本願寺の文学—『平家物語』と和歌を中心に—」について

2024年度特別展観は、中世文学会2024年度秋季大会が、大宮キャンパスで、10月26日（土）、27日（日）の両日に開催されることから、テーマを「中世本願寺の文学—『平家物語』と和歌を中心に—」として、10月18日（金）、21日（月）～27日（日）の期間、開催しました。



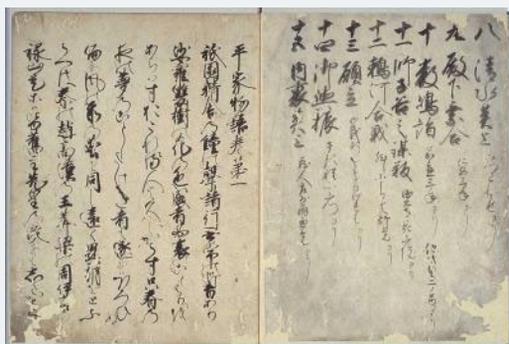
「中世本願寺の文学—『平家物語』と和歌を中心に—」（2024年度）

https://library.ryukoku.ac.jp/bbses/bbs_articles/view/117/4425e7ec904add7b5f16d755a2bf8d2?frame_id=554

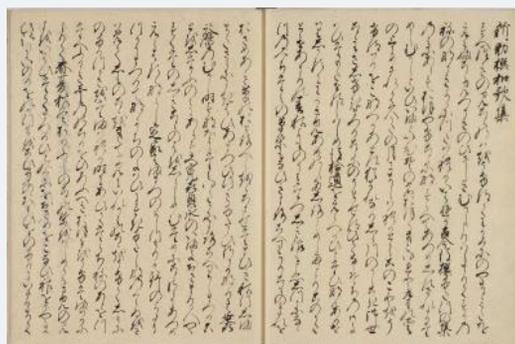
<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-G8lrmzxqzR4>

西本願寺歴代宗主が蒐集した蔵書の一部は、明治時代に龍谷大学に下賜され、写字台文庫として、大宮図書館に所蔵されています。蔵書には、真宗や仏教関係の書籍ばかりではなく、文学関係の書籍も多数収められています。

今回の特別展観では、歴代宗主の蔵書目録の1つである『御書物日記』などに記されている文学関係の書籍を辿り、『平家物語』をはじめとする軍記物語や『新勅撰和歌集』といった和歌集など40点余りを展示しました。見学された方々からは、「教科書でしか見たことがない文学作品を直接見学できた。」「中世の文学作品を数多く所蔵していることに驚いた」などの反響をいただきました。



『平家物語』



『新勅撰和歌集』

2024年度特別展観は終了しましたが、展示内容につきましては、ジャパンサーチのギャラリーで公開しています。



<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-G8lrmzxqzR4>

ギャラリーでは、展示された資料のほとんどが、全頁閲覧できます。特別展観を見逃された方、見学した資料をもっと詳しく見たいという方は、上記URLよりご覧ください。

ライブラリーサポーターのこの一年

・「ライブラリーサポーター」とは

ライブラリーサポーターは、深草図書館を拠点に活動する図書館のボランティア団体です。図書館の利用率向上や魅力発信を目標に、展示やイベントの開催・運営、他大学や外部の方との交流など様々な活動を行っています。図書館での活動を通して、サポーター自身も気づきや成長を感じられる活動です。

2024年度は、例年より一層濃い活動内容になりました。数多くのイベントや新しい試みに参加して頂いた方々が満足していただけていたならば幸いです。

(文学部日本語日本文学科
4回生 近藤 真菜)



・ライブラリーサポーター説明会(司書課程クラス) : 4月22日(月)

4月22日(月)、本学にて開講されている司書課程クラスの授業内でライブラリーサポーター説明会を実施しました。

ライブラリーサポーターとはどんなボランティアか、具体的にはどんな活動をしているかを受講生の皆様に説明しました。広い教室の中、100名ほどの受講生の皆様に前にして話すのは緊張しました。しかし、およそ十分程度の説明を興味深そうに聞いていただけて、とても話しやすかったです。

新規サポーター獲得に向けて、来年度以降も継続して行っていきたいと考えています。

(法学部法律学科 2回生 別所 鈴夏)

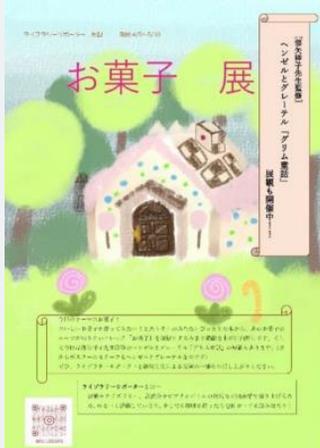


・ミニ展覧「お菓子」 : 4月5日(月)～5月30日(木)

4～5月に、ミニ展覧「お菓子」を行いました。

サポーターめいめいでお菓子まつわる小説、絵本、エッセイを選書し、自作のポップやポスター、飾りとともに展示しました。また、この展覧は本学にて教鞭をとられている部矢祥子先生にご協力いただきました。先生が研究を行っている『ヘンゼルとグレーテル』について、トリビアやミニクイズなどと共に華やかな展示となりました。

春休み前から時間をかけて準備を行い、新入生を迎えるにぴったりな内容になりました。様々なジャンルの「お菓子」本に出会うことができ、私たち自身も楽しい思いでいっぱいになりました。



(文学部日本語日本文学科
4回生 近藤 真菜)

・ライブラリーサポーター任命式 : 5月16日(木)

5月16日(木)に深草図書館ナレッジコモンズでライブラリーサポーター任命式が行われました。任命式は任命書の交付、館長挨拶、記念写真撮影の流れで行い、今年度から新しく22名の方がライブラリーサポーターとして一緒に活動して下さることになりました。

去年までの活動に興味を持ってくださった方、新しいことをやってみたいという思いを持って参加して下さる方など様々な動機をもたれていて、これからのライブラリーサポーター活動がとても楽しみになりました。

(文学部歴史学科 3回生 秦 夕希菜)



・保護者懇談会での図書館ツアー：5月25日（土）

5月25日（土）に行われた保護者懇談会で図書館見学ツアーを行いました。保護者の方に実際に図書館内を歩いてもらい、学生が利用しているサービスや設備をご案内するというイベントです。ツアーに参加された方々は自習スペースやきれいな施設、蔵書の数々に感心されている様子でした。また施設や学校生活についての質問もあり、交流の中で図書館の魅力が伝えられたと思います。

私たちライブラリーサポーターはツアー参加者の呼び込み、案内といった業務に取り組みましたが、案内する中で改めて気付く図書館の良さが、非常に良い経験でした。

（経済学部国際経済学科 3回生 坪久田 さくら）



・ミニ展覧「推し本」：

6月20日（月）～8月31日（土）

ライブラリーサポーターがそれぞれの好きな本をジャンルに関係なく紹介しました。本の紹介ポップの作成と本の配列などの作業をして、開催日を迎えました。また、私はこの取り組みのなかでポスターを作成しました。そして、本棚の周辺や2階部分などの数か所に掲示させていただきました。他のメンバーのものを見るとポップがとても綺麗に書かれていたため、とても関心をもちました。幸いなことに、私が展示した『梨の子ペリーナ』も貸し出されていたため非常に嬉しかったです。

（文学部英語英米文学科 1回生 村井 琉之介）



・留学生クラスとの交流会①：7月19日（金）1限

留学生交流では、郷土料理をテーマとしたカルタの札作りをしました。私は参加者としてイベントに参加し、ペアになった人との互いの国の料理について交流をしました。私のペアの人は中国出身の方で、麻婆豆腐のイラストを描いていましたが、一方で私が描いた稲荷寿司のイラストにとっても興味を持っていました。交流時には、麻婆豆腐に使われている調味料や、稲荷寿司に用いられるお揚げについての紹介なども互いに行いました。また、参加した人の中にはヨーロッパ出身の人もいましたが、カルタのルールを知っている人が多く、実際にゲームを行った際には、白熱した戦いになりました。

私は交流会に参加して、世界には個性的な料理がたくさんあることを知りました。そして、どの参加者の方も自国の料理を笑顔で紹介していて、自分の国に誇りを持っている点は、アジアもヨーロッパも関係なくみんな同じなんだなと感じました。

（文学部歴史学科 2回生 川極 元春）



・留学生クラスとの交流会②：7月19日（金）3限

7月19日（金）に留学生の方々とライブラリーサポーターによる「ことわざ」をテーマにした交流会が行われました。まずはお互いの自己紹介に始まり、さまざまな国のことわざを留学生の方々から教えていただきました。それから、日本のことわざをいくつか紹介させていただいた後に私たちが用意していた「日本のことわざクイズ」を留学生の方々にはグループに分かれ、ホワイトボードを用いて回答してもらおうといった形で行いました。

ひと昔前の日本語が用いられていることも多いことわざについて上手く伝えられるかといった不安が少しあったのですが、随所で説明を加えることを心がけたり、留学生クラスの先生がサポートしてくださったりしたことで無事に交流会を行うことができました。

留学生の方々にも楽しんでいただけたようで、終始にぎやかで、お互いの文化について知ることのできる時間を過ごすことができました。

（文学部臨床心理学科 3回生 高木 咲）



・ミニ展観「学部本」：

8月3日（土）～8月25日（日）

高校生の方々に、龍谷大学入学後どのような資料を使って勉強できるのかを知ってもらい、大学生の勉強内容のイメージを持ってほしくてオープンキャンパス時にミニ展観「学部本」を行いました。

具体的にはライブラリーサポーターが所属している学部学科の、講義やレポート作成で実際に使ったことのある深草図書館の資料を展示しました。当日はたくさんの方が展観の前で足を止めてくださり、龍谷大学の魅力をライブラリーサポーターなりの角度から伝えられたかなと思います。

（文学部歴史学科
3回生 秦夕希菜）

・オープンキャンパス時のクイズラリー：

8月3日（土）8月25日（日）

クイズラリーは、オープンキャンパスの際にクイズを通してサポーターと交流し、参加者に龍谷大学の図書館を知っていただくという目的で行いました！参加者の方に問題がところどころ空白になっている用紙を配布し、図書館内にあるライブラリーサポーターに質問して穴埋めを行い、その問題を片手に図書館内にある答えを探し出していただくというイベントでした。なかなか、高校生の方々とコミュニケーションをとれる機会というものがなかったので、このクイズラリーの質問を通して交流することができとても有意義な時間を過ごすことができました！

（文学部歴史学科 1回生 浜田 和佳奈）



・大学図書館学生協同交流シンポジウム：

9月5日（木）～9月6日（金）

毎年、全国の大学図書館がどのような取り組みを行なっているのかを報告しあうイベントです。北から南までの多くの大学図書館が参加します。私たちもこの半年ほどの取り組みを発表しました。他の大学の取り組みを知ることで、自分たちの大学ではどのようなことができるのかを考える良い機会でした。また、その場で他大学に質問をすることができたので、即実践するための情報収集が可能でした。その後他のライブラリーサポーターに共有を行い、皆で知見を広めました。非常に興味深いイベントだったので来年度も参加したいです。

https://www.lib.tottori-u.ac.jp/gakusei_shinpo/main.html#program

（文学部哲学科 3回生 櫻井 萌乃）

ライブラリーサポーター企画
深草図書館クイズラリー
&
「学部本」展観

龍谷大学オープンキャンパスを通して深草図書館を知ろう！

「学部本」展観
ライブラリーサポーターは、龍谷大学図書館の資料を手に取り、授業やレポート作成で実際に使ったことのある資料を展示します。当日はたくさんの方が展観の前で足を止めてくださり、龍谷大学の魅力をライブラリーサポーターなりの角度から伝えられたかなと思います。

深草図書館クイズラリー
深草図書館にまつわるクイズに挑戦して、ライブラリーサポーターから記念品をゲットしよう！

日程 8月3日(土) 8月25日(日)
12:00～15:00

会場 深草図書館
入場料 無料

インフォメーション
H30.11.18更新

・全国高等学校ビブリオバトル2024京都府大会：
10月5日（土）

高校生が各々のおすすめの本を発表し、聴衆が気に入った本に対して投票し、チャンプ本を決める全国高等学校ビブリオバトルの京都府大会が開催されました。今回のビブリオバトルでは京都府内の6校7名の方が出場し、それぞれが魅力に感じた1冊を5分という短い時間の中で聴衆に発表しました。私たちライブラリーサポーターは当日の司会進行に加え、時間の管理、投票用紙の配布や集計を行いました。

大会では3名が決勝に進出し、優勝（チャンプ本）は『恋に至る病』に決定しました。様々なジャンルの本が大会に出ていたのでどれだけ聴衆に本の内容の興味を持ってもらえるかは参加者の力量に大きく左右されるものだと思います。

今回発表された本の中にはやはり私の知らなかった本もあり、それでも興味をひかせるような発表ばかりでしたので本屋に寄って手に取ってみたいと思いました。

（経済学部 1回生 鈴木 皓太）



・ミニ展観「一行コレクション」：
10月28日（月）～12月2日（月）

このイベントは大学図書館学生協働交流シンポジウムでの他大学からヒントを得て企画しました。対象書籍から一行のみを選行し、かつ表紙にカバーを被せ利用者にどんな本か知りたくなるドキドキを届けました。まだまだ改良の余地があり発展途上の企画にはなりましたが、ライブラリーサポーター主催イベントに新しい風を吹かせたに違いありません。やって良かったです！来年度はどのような形で展観が行われるか今からとても楽しみです。

（文学部哲学科 3回生 櫻井 萌乃）



・全国大学ビブリオバトル2024 龍大予選：
10月28日（月）

龍谷大学から3名、大阪国際大学から1名のバトラーが参加し、各々の推薦したい本の魅力を5分の時間で発表しました。ライブラリーサポーターからはバトラーとして2名参加しました。SF・コメディ作品や冒険物、また現代社会に対するイデオロギーを訴えるものまで様々な本が紹介されました。私はミヒヤエル・エンデ著『鏡のなかの鏡』を紹介しました。大会結果は大阪国際大学の方が紹介された本が最多票でチャンプ本を獲得され、関西Aブロック決勝に進まれました。

（文学部英語英米文学科 1回生 村井 琉之介）



・全国大学ビブリオバトル2024 関西Aブロック決戦：
11月9日（土）

11月9日（土）に全国大学ビブリオバトル2024 関西Aブロック決戦が和顔館1階アクティビティホールにて行われました。今回の大会では他大学から4名の方が参加され、私たちライブラリーサポーターは主に司会・進行を務めさせていただきました。発表を聞いて、興味を引く話し方であったり、間の取り方であったりがどの方も巧みだなという印象を受けました。とてもおもしろく、同時に読書欲がかき立てられました。

今大会におけるチャンプ本には『葉桜と魔笛』（著者：太宰治 イラスト：紗久楽さわ）が選ばれました。こちらの本は、文豪の名作と人気イラストレーターのコラボレーションが楽しめる『乙女の本棚』シリーズの一作品であり、小説としてのみならず画集としても楽しめるという本になっています。気になった方はぜひ一度、お手に取ってみてはいかがでしょうか。

（文学部臨床心理学科 3回生 高木 咲）



・読書会：11月25日（月）

ライブラリーサポーターで初となる「読書会」を行いました。「読書会」は同じ本を事前に各自読んできて、その本について思ったことを語り合う活動です。今回は約6名の参加でした。

テーマとなった本は宮沢賢治の『注文の多い料理店』です。司会者などの役割は特になく、皆でそれぞれが読んで良いと思ったこと、疑問に思ったことなどを自由に話し合い、とても充実した時間でした。同じ物語を読んでも、気になるポイントが人それぞれ違っていて、聞いていて興味深かったです。

自分の感じたことを皆に話せるのも新鮮で楽しかったです。次の開催があったらまた参加したいと思いました。

（経営学部 経営学科 1回生 吉村 美咲）

・選書ツアー：12月4日（水）

図書館の本は普段であれば図書館の職員さんが選んでいます。今回は私たちライブラリーサポーターのメンバーが実際に本屋さん（大垣書店・イオンモールKYOTO店）に行き、図書館に入れる本を選びました。

選書ツアーでは実際に本屋さんで手に取って選ぶことができるため、普段自分たちが読んでいて他の人たちにおすすめしたいジャンルの本を入れたり、普段全く読まないジャンルの本を選んだりすることができました。

今回選書ツアーに参加したことで私の好きなジャンルで他の図書館を利用する人たちにも読んでもらいたいと思った本を多く入れることができたのでとてもよかったです。また、自分が今まで手に取らなかったジャンルの本を入れることもできました。今回選書ツアーで選んだ本が図書館に入り多くの人に手に取ってもらえると嬉しいです。

（文学部歴史学科 1回生 橋本 萌）

・全国中学ビブリオバトル 京都大会：12月7日（土）

12月7日（土）、深草キャンパス和顔館にて全国中学ビブリオバトル京都大会が開催されました。ビブリオバトルは、発表者に1冊ずつ本を紹介してもらうところから始まります。参加者は発表を聞いた上で「どの本が1番読みたくなったか」という基準をもとに投票を行い、優勝者及びチャンプ本を決定します。私たちライブラリーサポーターは今回、参加者・観戦者の誘導や開会式・閉会式の司会進行に加え、予選会と決戦会の司会、タイムキーパー、投票結果の集計等を行いました。開始前は緊張した面持ちだった発表者のみなさんでしたが、試合が始まると途端に堂々と表情豊かに語り始める様子が印象的でした。私は今年で2度目の参加だったのですが、昨年に負けず劣らずのハイレベルなプレゼンテーションが今年も熱く繰り広げられており、圧巻でした。

（文学部日本語日本文学科 2回生 森 優奈）



2024年度の館内展観について

～こんな展示をやっていました～（後期展示）

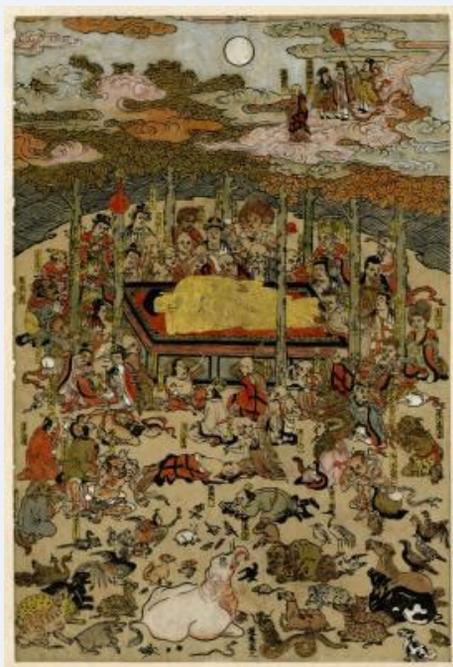
前回「来・ぶらり」70号に於いて、深草・大宮・瀬田の各館で、季節や出来事、年中行事、レポートや卒論などを取り上げて、いろいろなテーマによる館内展観を紹介させて頂きました。今回は、その続きとして、後期（9月～3月）に開催された各館の館内展示について、龍谷ミュージアムとの連携展示、教学企画部ライティングサポートセンターとの企画展示などを中心に紹介します。

・図書館×龍谷ミュージアム連携展示

龍谷ミュージアムで開催された秋季特別展観「眷属（けんぞく）」との連携展示を行いました。展示期間は、2024年9月24日（火）～11月22日（金）の期間に開催しました。今回のテーマ「眷属」は、仏や菩薩に付き従う脇侍や諸尊などを指す言葉です。図書館では、眷属の資料として、「釈迦涅槃像」や「韋駄天像」、「庚申青面金剛像」といった一枚刷りの木版画を中心に、各館の展示コーナーで展示しました。



連携展示「眷属」ポスター



一枚刷り「釈迦涅槃像」（江戸時代）

・図書館×ライティングサポートセンター 連携展示「観光」

図書館ではライティングサポートセンターと連携し、「観光」をテーマに連携展示を行いました。展示期間は2024年11月1日（金）～2025年1月20日（月）で深草・瀬田・大宮の3図書館同時展示を行いました。

連携展示の目的は観光のあり方です。コロナ禍が落ち着いた着き、日本では外国人観光客が急増していますが、旅行客の急増に伴い、オーバーツーリズムによる問題がメディアで取り沙汰されています。このように改めて観光のあり方を見つめ直すことを目的として開催されました。

A screenshot of a library website page for the exhibition "観光" (Tourism). The page features a header with the title "「観光」" and a sub-header "図書館×ライティングサポートセンター". Below this, there is a section titled "図書館展示について" with details on the exhibition period (2024年11月1日(金)～1月20日(月)), locations (深草図書館, 大宮図書館, 瀬田図書館), and contact information. There is also a QR code and a URL at the bottom right.

・その他、こんな展示もやっていました。

深草・大宮・瀬田の各館で、いろいろなテーマにより、各館の蔵書を活用した館内展示を行っています。2024年後期（9月～3月）の館内展示を一覧にご紹介します。

○深草図書館

開催期間	テーマ
8月～9月	今年で100周年展
9月	政策学部Ryu-SEI GAPチーム「にじここ」企画カミングアウト展
10～11月	卒論・プレゼン展
10～11月	来・ぶらり69号「学生へ薦めたいこの一冊」展
12～1月	動物と共存展
1月～2月	来・ぶらり70号「龍大生のお薦め本」展
2月～3月	サブカル×ブックの世界展
2月～3月	免疫力を高めよう！展



深草図書館：来・ぶらり70号「龍大生のお薦め本」展

○大宮図書館

開催期間	テーマ
9月（8～9月）	北陸展
10～11月	卒論展（前期）
11～1月	卒論展（後期）
12月	ミニ展観「春日若宮おん祭り」
1月	ミニ展観「親鸞聖人～御遺徳を伝える～」
2～3月	ミニ展観「眠れる図書館の資料たち9」
2～4月	「江戸時代の出版文化」展



大宮図書館：江戸時代の出版文化展

○瀬田図書館

2025年春、社会学部は瀬田キャンパスから深草キャンパスへ移転します。瀬田図書館では2023年度から「社会学部教員の著作」をテーマにしたミニ展観を数回にわたり企画しました。第1回から第3回は社会学部在職中の先生方の著作を展示してきましたが、第4回目となる2024年9・10月は社会学部創設時の先生方の著作や学術雑誌を、5回目となる2025年2・3月は退職された先生方の著作を中心に展示しました。

上記以外のミニ展観も、学生スタッフを含めた瀬田図書館全スタッフがアイデアを出し合って多数実施してきました。「2024年度後期瀬田図書館ミニ展観.PDF」をクリックし、一覧をダウンロードの上、ご覧ください。

[2024年度後期瀬田図書館ミニ展観一覧.pdf](#)

今後も各館でいろいろなテーマを取り上げて館内展示を行いますので、各館の展示コーナーをご覧ください。もしかしたら、今まで気づかなかった本との出会いがあるかもしれません。



瀬田図書館：社会学部教員の著作part5